



令和4年4月28日
京都市産業観光局
〔観光MICE推進室〕
075-746-2255

「京都観光振興計画2025」に係る指標及び目標値等の設定について

「京都観光振興計画2025」(令和3年3月策定)の進捗を管理するための指標及び目標値について、今なお観光の回復は不透明な状況にありますが、持続可能な観光の実現に向けた取組を着実に推進するため、この度、下記のとおり設定しましたのでお知らせいたします。

記

1 指標及び目標値等の設定に当たって

これまでの観光振興計画では、5,000万人観光都市の実現、続いて観光の「質」の向上を図るため、観光客数や宿泊客数、観光消費額等を指標に設定し、取組を進めてきました。

「京都観光振興計画2025」では、市民の暮らしの豊かさの向上、地域や社会の課題解決、SDGsの達成に貢献し、様々な危機や環境問題に対応していく持続可能な観光の実現を目指すこととしており、指標、目標値等の設定に当たっては、これまでの内容を一新し、市民の観光に対する意識や観光事業者の仕事の満足度など、幅広く項目を設定し、京都観光を取り巻く現状の把握、コロナ禍からの回復状況の検証につなげていきます。

＜指標等の設定のために活用する主な調査＞

本計画の指標等の設定においては、新たに実施した「市民意識調査」や「事業者実態調査」等の結果も活用し、市民、観光客、観光事業者・従事者等の三者からの幅広い視点から項目を抽出。

【観光客調査】

- 京都観光総合調査(原則毎年実施)(令和2年以降コロナ禍の影響により一部調査を実施できず。)
- 観光客の動向等に係る調査(令和2年)

【市民意識調査】

- 第3回市政総合アンケート「京都観光について」(令和2年)
- 京都観光に関する市民意識調査(令和3年～)

【事業者調査】

- 京都観光事業者実態調査(京都市観光協会)(令和3年～)
- 京都観光従事者実態調査(京都市観光協会)(令和3年試行実施)

【国際会議統計】

- JNTO国際会議統計(毎年実施)

2 重点指標及び目標値の設定

(1) 重点指標の設定の考え方

持続可能な観光の実現に向けては、市民、観光客、観光事業者・従事者等、京都観光に関わる全ての方の満足度の向上を図ることが重要であり、とりわけ「市民生活と観光の調和」、「市民の暮らしの豊かさの向上」「地域や社会の課題解決」等の観点を中心に重点指標を設定します。



重点指標は、従来の観光客調査のみならず、新たに実施した市民、観光事業者・従事者等を対象とした意識調査等の結果を活用し、幅広い視点から項目を抽出。本計画に掲げる5つの柱「2030年に実現を目指すまちづくりと観光」を全て網羅する形で、24の重点指標を設定します。

(2) 目標値の考え方

(1)の重点指標に目標値を設定します。設定に当たっては、計画期間中（～令和7年度末）における回復予測が困難であるため、「平成27年以降の調査結果」※の最高値又は最低値を目標値として設定し、計画期間中、毎年、その更新を目指すことで、コロナ禍からの回復状況の検証、対策等につなげます。ただし、計画期間中に状況が変化した場合は、目標値を改めて見直します。

※ 平成27年(過去最高の観光客数)の時点で調査未実施の項目は、調査開始以降の数値を基に設定。

(3) 重点指標及び目標値

 平成27年以降の最高値を目指す指標
 平成27年以降の最低値を目指す指標

No	重点指標	目標値	目標値の出典
1	市民生活と観光の調和・豊かさの向上		
1	観光による公共交通の混雑を経験した市民の割合	71.5% 	令和2年市民意識調査 (ただし、令和2年以降調査実施)
2	観光地の混雑を経験した市民の割合	65.9% 	
3	観光による道路の混雑を経験した市民の割合	65.4% 	
4	観光客のマナー違反の行為を迷惑に感じた市民の割合	52.6% 	令和3年市民意識調査 (ただし、令和2年以降調査実施)
5	宿泊施設による騒音やごみ捨て、車輛の出入り等を迷惑に感じた市民の割合	36.3% 	
6	京都の発展に観光が重要な役割を果たしていると思う市民の割合	74.5% 	
7	市民による京都市内観光時の満足度	64.3% 	令和3年市民意識調査 (ただし、令和3年以降調査実施)
8	「とっておきの京都」プロジェクトの対象エリア(伏見、大原、高雄、山科、西京、京北)に来訪した観光客の割合(訪問場所の分散化)	18.5%  【暫定目標】	令和2年観光客調査 ※暫定目標…とりわけコロナ禍による分散化意識拡大の影響が大きいため
9	「地域との調和」につながる行動を積極的に取り組まれている事業者の割合	51.9% 	令和3年事業者調査 (ただし、令和3年以降調査実施)
10	自社の事業活動が京都の文化の維持継承等に寄与してきたと思う事業者の割合	70.0% 	

No	重点指標	目標値	目標値の出典
2 京都の「光」の磨き上げ・観光の質の向上			
11	観光消費額単価（日本人）	20,931 円	平成 30 年観光客調査
12	観光消費額単価（外国人）	46,294 円	平成 30 年観光客調査 (ただし、平成 28 年以降調査実施)
13	観光客のリピーター率（京都の訪問回数 10 回以上の日本人観光客の割合）	62.0%	平成 27 年観光客調査
14	観光客のリピーター率（京都の訪問回数 2 回以上の外国人観光客の割合）	22.4%	令和元年観光客調査
15	観光客の宿泊率	24.6%	令和元年観光客調査 (ただし、統計手法の変更により令和元年以降の数値が対象)
16	観光客の平均宿泊日数	1.61 泊	平成 30 年観光客調査 (ただし、平成 28 年以降調査実施)
3 担い手の活躍			
17	観光事業従事者における仕事の満足度	49.5%	令和 3 年事業者調査 (ただし、令和 3 年以降調査実施)
18	従業員の能力開発等、担い手の育成に取り組んでいる事業者の割合	73.8%	
(9)	「地域との調和」につながる行動を積極的に取り組まれている事業者の割合（再掲）	51.9%	
(10)	自社の事業活動が京都の文化の維持継承等に寄与してきたと思う事業者の割合（再掲）	70.0%	
19	デジタル技術の推進につながる行動に積極的に取り組んでいる事業者の割合	62.3%	
4 危機に対応でき、安心・安全で持続可能な観光の推進			
20	感染症や災害などの様々な危機に対応するための B C P（事業継続計画）の策定に取り組んでいる事業者の割合	57.0%	令和 3 年事業者調査 (ただし、令和 3 年以降調査実施)
21	入洛時の交通手段として公共交通を利用された観光客の割合	93.7%	平成 27 年観光客調査
22	景観や環境に配慮した行動に積極的に取り組んでいる事業者の割合	57.1%	令和 3 年事業者調査 (ただし、令和 3 年以降調査実施)
5 M I C E の振興			
23	国際会議開催件数 （J N T O（日本政府観光局）基準）	26 件 【暫定目標】	令和 2 年国際会議統計 ※暫定目標…とりわけコロナ禍による会議開催形態の多様化等の影響が大きいため
24	国際会議における海外参加者数 （J N T O 基準）	562 人 【暫定目標】	

3 重点指標以外の指標の設定

重点指標のほか、京都観光を取り巻く現状の総合的な把握に努めることを目的に、59の指標を設定、重点指標と合わせて83の指標をもって現状の把握に努めます。

なお、重点指標以外の指標については、経年変化を確認し、いわば京都観光の総合診断、あるべき姿に向けた現状の把握につなげるものとします。

<指標（重点指標を除く）の例>

1 市民生活と観光の調和・豊かさの向上

月別繁閑差、朝・夜観光をされた観光客の割合、地域行事等に積極的に参画している観光事業者の割合、市民による観光の実施状況 など

2 京都の「光」の磨き上げ・観光の質の向上

文化や文化財の維持・継承に貢献したい観光客の割合、観光中に残念なことがあった割合・感動したことがあった割合、情報源としてデジタル媒体を活用した観光客の割合 など

3 担い手の活躍

観光事業における正規雇用率、商品・サービスの売価が上昇した観光事業者の割合 など

4 危機に対応でき、安心・安全で持続可能な観光の推進

積極的に防災・防火訓練等を実施している事業者の割合、意識的に環境に配慮した行動をされた観光客の割合 など

5 MICEの振興

国際会議消費額（経済効果額）、国際会議の平均開催日数 など

(参考) 指標等の詳細については以下ホームページのとおり。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000283682.html>